

# 道守

みちもり

MICHIMORI  
TSUSHIN

通信

vol.5 春号



巻頭随想

私を育てた田舎道・自転車道・カブトムシの道  
秋山幸二

特集

シーニックバイウェイ九州 先行事例づくりへ

海外道事情

米国シーニックバイウェイの魅力

道守会議の輪

九州全県に道守会議

【街道を行く】

豊前街道(山鹿市)の今

道守九州会議  
設立趣旨

古代から、人々は共有の財産として、力を合わせて普請し道を守ってきた。道は暮らしを支え、産業を起こし、文化を運び、人々を結びつけた。

なのに、道はいま、人々から、地域から遠い存在―子供たちが道路でキャッチボールや縄跳びをし、老人たちが縁台で将棋を指した風景はどこへいったのだろう。便利だが危険、車優先、大気汚染や騒音：心地よい広場の役目や「公共」を失ってしまったのだろうか。

私たちにも忘れ物がある。「道は行政の責任」と自宅前のごみや雑草、汚れなどにさえ知らん顔。空き缶どころか家庭ごみまでポイ捨て。「道普請」の心は一体どこへ。

心を痛め、道の美化や植樹・植栽などに取組む人々が増えている。実践者を中心に「道を考えよう」という機運が高まりました。道路行政も転換期、量から質へ、車優先の見直し、さらに住民と行政の「協働」という新しい潮流が芽生え始めた。新しい機運と潮流をまとめ大きな流れに―。それが「道守九州会議」設立の呼びかけとなった。

道守。その由来は万葉の昔にさかのぼる。道を守り旅人の飢えと渴きを潤す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は、住民と行政とが協働し「道と人の新しい緑」を紡ぐ。さあ、一歩踏み出そう。

新しい道へ―新生ホークスの二軍監督になって初めての開幕が迫った。私の挑戦心は「道」という言葉や「道を開く」そんな思いと重なる。「プロ選手は自らの道を切り開くしかない」という現役時代の実感と、子どもころの思い出・自分でつくった道のことを頭に浮かぶ。熊本・八代の家は田舎だった。カブトムシを探りに山によく行った。たくさん採りたいから誰も知らない場所を探す。たくさんいる場所へは何度も通う。誰にも教えられない自分だけの道。自分の道をつくった、そんな思い出が残っている。

そのころ、国道3号は砂利道だった。家の周囲は田んぼ道。学校に行く前、毎日2、3キロ走った。私を少年野球チームに入れた母が与えた日課だった。練習の面もあったかもしれないが、それ以上に母は私を鍛えたかった、強くしたかったようだ。子ども、つまり私の兄を幼くして亡くしていたから。

八代高校へは片道40分、自転車で通学した。途中の千丁町は蘭草（いぐさ）の名産地。さえぎるものがない蘭草田の道をひたすらペダルをこいだ。向かい風、夏の日差し、合羽で走る雨の日の蒸し暑さ…。つらかった。それが野球選手となる土台をつくったのかもしれない。

いろんな幸運や支援があつてプロ野球の選手になった。だれも同じだが、プロになってからは自分の力しかない。自分で道を切り開くしかない。プロになってからもよく走った。自主トレでしばしば訪れた伊豆の川沿いの道やグアムの公園周回路をひたすら走り続けた。私にとって道は「歩く」より「走る」「自転車で走る」、そんな印象が強い。

人にはいろいろ道が用意され、必ず岐路がおとずれる。自らの判断で進むしかない。私は二軍監督という新たな道を走り始めた。一から勉強し今度は「秋山幸二」という指導者をつくりあげていきたい。若い選手の道案内や支援が仕事。私の母や八代の田舎道・自転車道の役目だと思ふ。道を守る・道守のことは初めて聞いた。西戸崎のホークス合宿所の寮生約20人が寮周辺の道などを清掃したのも道守活動でしょう。場所や舞台は違っても一緒ががんばりましょう。



プロフィール

福岡ソフトバンクホークス二軍監督。1962年熊本県生まれ。81年西武ライオンズに入団、94年から02年までダイエーホークスで活躍。本塁打王・盗塁王各1回、最多勝利打点2回、ベストナイン8回、ゴールデングラブ賞11回など受賞。通算2000試合出場と2000本安打を達成した。引退後2年間の野球評論家。

私を育てた

田舎道・自転車道・カブトムシの道

巻頭随想

秋山幸二  
KOJI AKIYAMA



- 1 巻頭随想「私を育てた田舎道・自転車道・カブトムシの道」 秋山幸二
- 2 特集 シーニックバイウェイ九州 先行事例づくりへ
- 4 海外道事情 「アメリカのシーニックバイウェイの魅力」
- 6 道守会議の輪…佐世保・福岡でシーニックキックオフ論議 全県に道守会議発足 道守ふくおか誕生
- 8 私の好きな道「国道328号・峠道 想えば似ている私の人生と」 田島直美
- 9 「私たちの道守活動」紹介
- 12 土木遺産……河内貯水池は土木遺産の名勝地 いま桜が盛り
- 13 街道を行く…… 「豊前街道(山鹿市)の今」
- 14 愛称は「とるば」です フォトコン応募は620点
- 15 ご存知ですか…… 道路の走りやすさマップ
- 16 道守たちのトピックス/人物伝
- 17 道の声・人の声/お知らせ

CONTENTS



表紙画:久富 正美 1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。  
裏表紙短歌:執行 和子 福岡県大牟田市在住。道守九州会議発足記念短歌入道作品

## 研究会が充足

### 湯布院・小国・日南海岸・佐世保と都市型の天神を研究素材に

道守九州会議は国土交通省九州地方整備局と共同で「シーニックバイウェイ九州研究会」を充足させ、2月3日に福岡で第1回研究会を開きました。経済、旅行、報道、地域活動、行政分野の関係者が活発に意見を交わし、地域から参加した宮崎市、佐世保市、小国町、湯布院町と中枢都市型として福岡市天神地区一帯の5地域を研究素材にさらに具体化のための検討を深めることになりました。

出席者 橋本武・九州大学名誉教授（道守九州会議代表）▼宮崎暢俊・熊本県小国町長▼西野賢治・佐世保市助役▼桑野和泉・玉の湯社長（道守おおい会議）▼岩切道郎・宮崎交通取締役▼黒田省司・九州山口経済連合会専務理事▼水嶋修三・JTB九州営業本部長▼井上寛・西日本鉄道取締役▼玉川孝道・西日本新聞社専務▼森袴彦・道守九州会議事務局長▼岡本博・九州地方整備局道路部長▼奥村康博・同道路調査官

**シーニックバイウェイとは**  
シーニックは景色、バイウェイは臨道、寄り道の意味で、米国で13年前から新しい観光施策としてスタートした。行政・住民・利用者・NPO・企業などが一体となって沿道景観や自然、文化財・歴史保全などに取り組む。国内では昨年度から北海道内で試みが始まり、観光地を結ぶ2ルートモデルに認定38団体が環境保全や地域づくり、観光振興など多彩な活動を連携しながら進めている。国土交通省九州地方整備局と道守九州会議が共催した観光振興と道路シンポジウム（昨年9月、福岡市）で米国と北海道の事例が報告され、反響と関心が集まり、九州での具体道の機運が高まった。

#### 報告1 小国町

報告者 宮崎暢俊・小国町長

#### 景観と環境を一体に

#### 「景観」ガイドライン

小国町は平成8年「まちづくり条例」制定。町内4地区で「小国らしい風景を残す」ワークシヨップ活動などに取り組み、景観と環境を一体に考える「景観」ガイドライン5提案（農・水・意志・心・形）を基礎に据え、開発を受け入れながら活性化に取り組んでいる。



人の行き来を盛んにすることが大事で、「小国パースポルト」は移住・外来者の相談窓口。広域農道ファームロードWART Aは天ヶ瀬町や南小国町も通る。シーニックバイウ

エイに合致するもので町内の官民だけでなく行政との連携も図って進めていきたい。（質問に答えて）農道は農道以上に観光や物流に使われている。牛馬優先の希望もあったが道路幅7mあり不自由はない。多面利用の広域農道は住民の期待と同時に景観や水系への不安も高めた。期待と不安を町と住民とが協議しながら対応を進めている。

#### 報告2 湯布院町

報告者 桑野和泉・玉の湯社長

#### 官民の協働実験が生んだ

#### 住民協定・地域ルールの動き

湯布院は温泉があるからではなく自然・景観重視の観光地づくりを40年以上、それが年間400万人の来訪につながった。しかし1994年に「うらおいのあるまちづくり条例」、2000年には官民一体で「ゆふいん建築・環境デザインガイドブック」を作ったが、みやげものの屋があふれ、ある雑誌で「行ってはいけない観光地」になったのも現実。



メイン通り「湯の坪」の顔見知り同士が「湯の坪街道デザイン会議」を昨年つくった。湯布院らしさを守るため小さくても住民協定を、地産地消を、景観アドバイザーを、と民衆合意に苦しみながら動いている。きっかけは、歩行者天国など官民が一緒に取り組んだ2002年の社会実験。参加者を中心に動いている。

景観・環境の大事さはだれもがわかっているが取り組みが小さい。かつて別府観光を築いた油屋熊八は「観光は点から線、線から面」といった。別府にないものが湯布院に、湯布院の向こうに阿蘇・長崎がある」という発想はシーニックバイウェイ。地域がつながることを研究会に期待している。

#### 報告3 宮崎・日南海岸

報告者 岩切道郎・宮崎交通取締役

#### ロードパークの守り手が

#### 企業からボランティアに

ロードパーク日南海岸は宮崎交通が資金も投入して育てたが、会社に余裕がなくなると景観が荒れ、平成15年から社員が清掃ボランティアを始めた。OBや住民も参加し19回実施した。コガネセンダンを3千本植え、8千本準備中。65年に一度咲くリュウゼツランは咲けば町ではニュースだが、ここには何千本もある。その代わり手入れは大変だ。



道守活動となっており、住民が参加するシーニックバイウェイこそ宮崎県の新しい観光施策に、と県に提言している。日南海岸や日向神話街道などはうってつけだ。焼酎ロードと銘打って焼酎の蔵元をつなぐルートづくりも進んでいる。宮崎はプロ野球6、サッカー11球団のキャンプ地。野球キャンプ

## 論議

### 本物の魅力をつなぐ・結ぶ 輝くコリドー(回廊)

#### シーンは多様、景観も生活も文化も

情報冊子を3セクスの空港ビルが作り空港だけでなく駅やバスセンターでも配布。この柔軟性は行政にはない。臨時列車など民間の動きが始まっている。

シーニックバイウェイはマイカーだけが対象ではない。日南は公共交通面が弱い。鉄道やバスも視野に入れた九州運輸局の動きもある。

#### 報告4 佐世保市

報告者 西野賢治・佐世保市助役

#### エコツーリズムと運動し社会実験を



市政102年・人口20万人の佐世保市は十九島、西海橋、ハウステンボスなど観光資源があり、米軍施設・自衛隊もあって地域経済を支え、商店街は活気があると評価されている。現在、佐世保駅周辺再開発事業を計画中で、市内観光施設のネットワークが課題。唐津や伊万里など佐賀県側との連携は行政では難しく民間連携先行の必要を感じている。

観光の実態をみるとハウステンボスは下降しているが、パールシーリゾートは平成13年以降増加。観光地同士の連携が必要。平成16年環境省のエコツーリズムに指定された。西海橋50周年で自然公園全国大会が開かれ、釣りバカ日誌の撮影もある。九十九島の自然を活かし、佐世保市を全国的にPRしたい。官民連携、地域ごとの連携をどう行か、この研究会を通じて勉強しながら取り入れていきたい。社会実験をどんどんやってみよう。

#### 域も入る。

橋本 さらにシーニックバイウェイ議論が必要だが、事例的な研究もやってみよう。

#### 都市部で徒歩・自転車のバイウェイを

玉川 昨秋の観光振興と道路シンポのアンケート回答に「地方型の施策だから都市部でも取り組める施策」とある。都市観光はスポットでは強いが回遊性には欠ける。都市型のシーニックバイウェイを考えると、自転車、徒歩など路地裏も含めたイメージだ。

水嶋 今の都市の話、前の湯の坪街道、これらを研究対象にしていく。車でハンパン飛ばすイメージがシーニックバイウェイにあつたが、小径も一緒に、と考えるとわかりやすい。

岡本 シーニックバイウェイという言葉にはこだわりがない。福岡の観光資源を移動する場合、次に進みたいと思わせる道があり、ふさわしい看板がある。桑野さんの「点と点を結んでいく」、は西野さんの「バラバラの拠点をネットワークしたい」と共通。次にもいいところがある道、そんなイメージだ。

宮崎 九州を広域につなぐとなるとどうしても道づくりが中心になる。岡本 道路自体は主体ではない。道路を中心に考えるとおかしなことになる。

宮崎 九州はバラバラ。観光客もスポットに向かう。シーニックバイウェイで連携コースや連携軸ルートを、と考える一方、ローカルで考えた方がおもしろい。

森 九州のシーニックバイウェイ議論のたたき台として事務局は次のようなイメージを試作した。▽地域資源を発掘・保全・活用し、本物の魅力が輝く地域（コリドー）を創出し資源には景観や自然、歴史や文化、考古、祭りやイベント、また食や産物も重要。バイウェイは個々の資源をつなぐ道筋や周遊回路。海や川の道もバイウェイ自体の美しさや魅力と個々の地域資源の魅力で構成。魅力には個々の資源の本物性・固有性・物語性、また運営人材の輝きも重要。地域住民や市民団体・企業・NPOなど関係行政の協働による総合的な

#### 發揮など

橋本 今までの議論とも近い内容だが、試案に対する意見を。

岩切 海や川なども道とみるなら、たとえば日南海岸の堀切峠下にあった鉄道の廃線跡は地域の交通遺産だ。都市部の路面電車跡を昔の写真を片手に訪ね歴史を感じる。鉄の道はシーニックバイウェイに活かせる。目線を広げてみると、違った切り口が見えてくる。

井上 道路そのものが広域的。行政の連携は少ないが、この研究会は地域がつながるいい機会。アンケートの意見に「シーニックバイウェイをつなぐにはストリー性が必要」とある。広域で連携を図ることが必要。

黒田 「ふんごっこ」は日豊線の右のトンネルを作った石工。歴史なども紹介できればいい。九経連は東九州自動車をつくってほしいが。

宮崎 廃線跡を歩くのはブーム。線路敷きは勾配が少なく歩きやすい。小国町の旧国鉄宮原線に架かる橋梁群は竹筋コンクリート製が無筋が、大学の先生の議論になって盛り上がりつつある。町内に6、7基あり国産産に、と協議中だ。

#### キーワードに「暮らし」を

橋本 九州のシーニックバイウェイのキーワードには「暮らし」も加わらなう。シーニックバイウェイの定義や普及の方策などさらに事務局で手とめ改めて議論をお願いしたい。

具体的動いてみたい面もあり、先行事例として日南の4地域と、加えて福岡の都市型シーニックバイウェイを研究素材として取り組んでほしい。

宮崎 佐世保を都市型と捉えることもできる。それぞれで特徴づけられれば事例として後の参考になる。桑野 歩くことを視野に入れた福岡のシーニックバイウェイの展開は面白そう。

西野 佐世保には多様な特徴の市場があり取り入れてほしい。橋本 都市型の視点を含めらうの地域で事例研究を進めたい。

# 旅が変わった！ 途中も楽しむバイウエイ

学生時代、北海道と九州をそれぞれ2、3週間かけて一周し、自然の素晴らしさを知った。その後もよく旅をした。妻も自然派、国内外のバックツアーに出かけた。

時間のゆとりが見え出したころ、ツアーがない旅へ憧れた。ワイオミング州観光局スタッフが薦めたのは車旅行。11年前、57歳で運転免許を取得。以後、米国内旅行はレンタカーの旅になった。寄り道（バイウエイ）の楽しさがある。シーニックバイウエイを選びながら走っている。体験や提案をまとめてみた。

尾崎 信也



ユタ州道128号はコロラド川沿いを走る。川岸は自然のまま、新緑が鮮やかだ。Oak Grove Recreation Siteに車を入れる。誰もいない。静かに流れる時間。風景を眺め、発砲スチロール容器に用意した食料やミルクで昼食。対岸は赤黒く逞しい崖、100mもあるうか。高いところは450mもあるそう。

笑い、黄色いボートが太陽に照らされて鮮やかだった。

170号に乗る。制限速度75マイル（120km）。すぐ右手のコロラド川が太陽に照らされ新緑と川面がきらきらと輝く。どこまでも続く。車窓の前方は広大な平原、遙か彼方に地平線が霞む。

コロラド州道82号に入ると風景は雪山と小川、白樺に似たアスペン（ポプラ科）の森は新緑。途中からカーブの多い崖道、雪山と新緑の山並み、溪流が美しい。White River National Forestで休み、小道を散策。人気はない。可憐で美しい花があちこちに。足元に小川。せせらぎの音が和ませる。清冽な流れに手をつけ水の冷たさに驚く。体が冷えてきた。車に戻りコーヒータム。絵のような風景と魔法瓶のコーヒートの温かさ。至福の時間だ。アスベン泊。

コロラド州道82号を進む。冬期通行止めが終わって間もないIndependence Passで車を降り山頂展望台Over Lookへ。4000m級の雪山が眼前に聳える。道の両側は白や黄、紺の高山植物が咲き、雪渓が美しさを引き立て、岩陰のリスが辺りを窺う。Twin Lakesで少し波立っている湖

面を眺めて昼食。コロラド州道91号に入っすぐ黄色い花の群落に出会う。振り返ると雪山が少しのぞいている。写真を撮った。170号を経由しUS40号へ。稲妻が走る豪雨になった。カーブが多い坂道。運転に集中し風景を楽しむ余裕はなくなった。雨も含めシーニックドライブは十分に楽しめた。この道を選んで正解、妻にも好評だった。



## 状況 & 提案

### レンタカーが生む旅のゆとり

#### 距離表示を 情報満載の地図を

勇気を出して初めて出かけたアメリカ・レンタカー旅行で道からの景観や所要所の展望台、休憩スポットなどに感動した。周りに余分なものがない道とドライブは爽快だった。通った道はシーニックバイウエイ、と後で知った。

以来、アメリカ旅行の仕方・行程が変わった。目的地を訪ねるだけの旅行から途中も楽しむ、シーニックバイウエイ経由になった。AAA（アメリカ自動車協会）道路地図にはシーニックハイウエイやシーニックロードが表示され、給油・食料購入・宿泊施設などの所在も記載されている。米国各州政府観光局の道路地図は日本でも事前にインターネットや在日事務所などで入手でき、表示マークは現地と同じだから便利だ。

シーニックバイウエイの指定基準は知らないが、体験的

## アメリカのシーニック

海外道事情

## バイウエイの魅力

### 体験レポート

#### 回り道は全線がシーニック

#### ユタ州からロッキーマウンテン国立公園へ

たとえば2003年春のアメリカ中西部旅行。途中ユタ州アーチーズ国立公園からコロラド州ロッキーマウンテン国立公園に向かった。インターステート（州間道）70号から国道US40号を行けば1日行程だが選んだのは全線シーニックバイウエイ。1泊2日の回り道だった。



に言えはばいくつか特徴がある。整備・舗装はされているが遮音壁やガードレールは一切ない。標識は数も内容も必要最小限、道番号や主要地点までの距離だけ。広告看板などはまったくない。所要所には休憩場所、Recreation SiteやRest Area、そしてトイレがある。トイレのきれいな、誰れの努力なのだろう。

数年前、90歳を超えた両親を北海道と沖縄に案内した。レンタカーを利用した。気に入ったらゆつくり堪能、トイレ休憩もひんばんに、と余裕の旅ができた。団塊世代の退職時期を迎え、車旅行が盛んになっていくだろう。

日本では観光地や食事・ショッピング情報は多いが、途中の道路に関する情報は少ない。道路自体が効率優先ではなかったか。シーニックバイウエイ的なものができる、景色の美しい道路や給油・食料購入・宿泊などの情報がある地図がほしい。「〇〇まで〇km」は一般道路にも旅行ガイドにも必需だ。多くの人が見知らぬ土地をもっと訪ねるようになるだろう。

筆者 尾崎 信也 さん

### WEBで発信中 熟年夫妻のレンタカー旅行



千葉県習志野市。68歳。米国シーニックバイウエイ旅行記はホームページ「おりおりの熟年生活」(<http://www1.seaple.ne.jp/ozaki/>)内で「61歳からはじめた海外レンタカー旅行」と題し文章と写真で報告。走行距離や燃料・宿泊費用などの記録もある。



### 日本語でも多彩に発信 シーニックバイウエイ 都市型バイウエイやバイク旅の報告も

シーニックバイウエイに関する情報は、インターネットでも多彩に発信されている。当然、米国内のものが多いが、日本語でも①旅行記録型 ②研究・開発型に大別される内容のものがある。

記録型は、尾崎 信也さんのページをはじめ「アメリカ大陸を走る」[http://www.geocities.jp/yuichiro\\_masuda/usdrive/index.html](http://www.geocities.jp/yuichiro_masuda/usdrive/index.html)は米国在住の日本人のリポート。「シーニックドライブ」と題し写真や地図つきで14コースを紹介。

「アメリカの車窓から」<http://homepage2.nifty.com/zzyzx/index.htm>はルート66の報告。「Misa's Oregon」<http://misaore.com/>の「Misaなび」最新号はシーニックバイウエイの謎の風車探索記。都市型バイウエイやバイク旅の報告もある。

研究・開発型では日本国内初の試みを伝えるのが「シーニックバイウエイHOKKAIDO」<http://www.scenicbyway.jp/>。旭川～占冠と千歳～ニセコ2ルートの紹介やイベント情報、特集「映像になった風景」など。関連サイトも増えている。

### 89年に始まった米国シーニックバイウエイ 連邦政府、州、自治体が指定 活力ある地域の創造

石田 東生・筑波大学社会学系教授（工学博士）

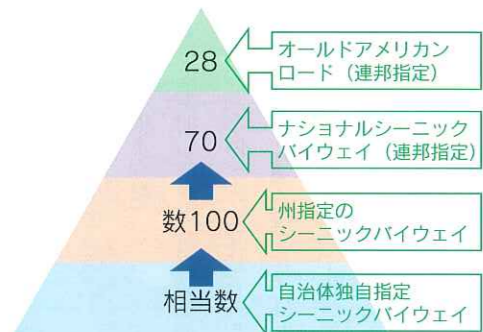
シーニックバイウエイは米国で89年にスタート。経済効果に加え、地域の人々が自らの地域や道路などの整備に愛着や誇りをもつ成果を上げている。

シーニック（景観）だけでなく、歴史・自然・文化・レクリエーション・考古学の六観点からバイウエイ（脇道）を含む領域（コリドー）を連邦政府、州、自治体が地域の申請に基づいて指定。優れた景観や物語を住民が主体になって長期的に維持・充実し、観光客にも楽しんでもらう趣旨だ。行政の各種補助があるが、行政は黒子。主体は地域。いい関係が成立している。ホームページなど情報発信が充実し、表彰制度もある。

一号指定のブルーリッジパークウエイ（全長約750km）は、景観を生かすために石組みのトンネルや木製ガードレールなど天然素材を徹底して使い、屋外広告ほとんど見られない。小さな道にも地域のストー

リーを伝える案内板が生まれている。地域のクラブや工芸組合、NPO、NGOなどがかわる。地域の努力により年間平均約2千万人の旅行者がこの道路を行き来し、約2640億円の経済効果も上げている。北海道では道外客のレンタカー利用が増えている。道や周遊が大切。日本では北海道で2003年から試行が始まり、千歳～ニセコ・旭川～占冠の両モデルルートを選定。地域住民・組織による運営、ブランド確立を目指す地域ビジネスの創造、情報ネットワークや支援センターによるサポートを推進している。

バイウエイとカーナビを結び、馬の通る道も、などアイデアが出て、地域ビジネスの芽も生まれている。何より実行力が備わってきた。行政指導では難航する看板などの撤去が住民の要請だとすんなり実現し、景観を乱す離農畑にカラシ菜を住民が再植栽、行政は車外風景が楽しめるよう道路標識を移動した例もある。住民や行政の「やる気」に「できる気」が加わったこと。地域と行政、市民団体の横のつながりができたことが成果だ。



米国各機関のシーニックバイウエイ指定ルート数



# 佐世保&福岡

## 現地でキックオフ論議 シーニックバイウェイ

福岡・博多「MACHI/MICHI」ブランドの創造へ  
交通シンポジウムで  
都市型シーニック探る

地下鉄新線や地下街延伸など都市交通の利便性が増す一方、違法駐輪追放などのマナーアップ作戦や歩行者天国実験など道の試みが続く九州の都心・福岡市天神で3月26日午後、都市交通シンポジウム「魅力ある都市「福岡」に求められる交通マネジメントとは」が開かれる。

企画のサブタイトルは「福岡・博多「MACHI/MICHI」ブランドの創造」。主催は西日本新聞社と天神モビリティタウン協議会、後援はマナーアップ天神宣言実行委員会や道守九州会議など。これまで天神の新しい道のあり方を論議・提言し、町を動かし始めた一連の天神フォーラム・民間型の取り組みで、今回は国内シーニックバイウェイの指導者、石田東生・筑波大学教授や谷口博昭・国土交通省道路局長が講演し、道守九州会議や地元大学研究者らが加わってパネル討論を行う。

各論者は「魅力ある都心の道の創造」などをテーマに、スポット型になりがちな都市の

魅力や機能を点から線へ、線から面へと連続化すること、道機能の多様化、沿道の隠れた魅力や歴史の再発見や再生などを提言する。文字通り都市型シーニックバイウェイの具体化の第一弾となりそうだ。

### エコツーリズムと一緒に検討 西海国立公園50周年記念 シンポジウム

環境省の「国立公園等エコツーリズム推進モデル事業」の指定を受けた佐世保市は西海国立公園50周年を記念し3月19日午後、西海パールシーセンターマリナホールでシンポジウムを開いた（環境省・国土交通省共催）。



## 道守ふくおか会議が誕生

### 九州全県で動き出す

道守ふくおか会議の設立総会と懇話会が3月23日午後、福岡市で開かれ、規約や世話人、活動・事業方針などを決めた。ふくおか会議の誕生で道守県レベル組織は九州7県に揃った。

設立総会には福岡県内各地で道守活動に取り組むグループの代表や道守九州会議の世話人、国土交通省県内事務所などから約100人が参加した。設立準備会代表の井上信昭・福岡大学教授（道守九州会議世話人）が経過などを報告。国交省九州地方整備局の岡本博道路部長が道守活動の労をねぎらい、民間と行政の協働の大事さや実際に動き出したシーニックバイウェイやとるは（フオトスポット&パーキング）での道守の役割などを述べ、ふくおか会議の発足を祝った。

総会に先立ち懇話会が開かれ、道守九州会議代表世話人の樗木武・九州大学名誉教授が「地域づくりと道守」と題し記念講演。さらに県内5団体、県外2団体が自分たちの道守活動の実情などを報告し、交流を深めた。

午後5時から設立総会に移り、総会後は交流会を開いた。道守ふくおか会議の世話役は次のとおり決まりました。（敬称略）

【代表】井上信昭（福岡大学社会デザイン工学科教授）【副代表】仲間浩一（九州工業大学助教授）【世話人】山田三代子（道守九州会議世話人、柳川道守ネットワーク）▽佐伯毅（同世話人、名島校区「花の架橋」実行委員会）▽白石道雄（同世話人、道の駅「おこしかけ」駅長）▽川口道子（NPOはかた夢松原の会理事長）▽大貝知子（NPOタウンモビルネットワーク副理事長）▽濱砂圭子（NPO男女・子育て環境改善研究所理事長）▽森永武幸（長崎街道曲里の松並木を愛する会会長）【事務局長】森将彦（道守九州会議事務局長、（社）九州地方計画協会副理事長）

### さあ、九州会議交流会の準備！

大分県の道路施策を協議する大分県幹線道路協議会（国土交通省、県、主要市、道路公団などで構成）に道守部会が誕生し、2月25日初会合が開かれた。

道守部会は民間の道守活動の盛り上がりに対し行政側がパートナーとして連携し取り組むべき課題などを協議・調整する組織で、民・官の協働活動の活性化・円滑化を図る目的。

初会合ではさつきそく道守大分会議世話人などを交えた懇談会が開かれ、今年秋の「道守九州会議交流会2005

エコツーリズムとシーニックバイウェイの一体論議の場となり、提案や提言、決意が相次ぎ、新しい観光モデル二つの試みへのキックオフイベントとなった。

自然や環境、さらに農業・漁業・文化・歴史・産業など多様な地域資源を観光に生かすエコツーリズムに対し、北海道に次ぎ九州で具体化の検討が始まったシーニックバイウェイは道守活動が母体。住民自らが取り組む道の清掃や植栽、歴史や文化の継承などの諸活動を生かし旅行者の魅力に、という観光への

アプローチに注目が集まった。パネリストとして参加したシーニックバイウェイ九州研究会の岡本博・国土交通省九州地方整備局道路部長（道守九州会議参事）は九州各地の民間・行政協働の道守活動や佐世保をはじめ湯布院、小国町、さらに都市部などの道を使った観光の可能性を探っている研究会の検討内容などを報告した。

### 道守九州会議の運営会議開く

## 発足2年目 もっと交流を組織化を

道守九州会議の第3回運営会議が1月13日、福岡市内で開かれ、発足2年目・17年度の活動の課題などを議論・検討しました。次のようなことを決めたり、確認しました。

### 今年の交流会は大分で

10月

九州の道守たちが一堂に集まる「道守九州会議交流会2005」を大分で開くことがまりました。

昨年10月の「第1回道守九州会議交流会2004（みちづくし）in KUMA

### 道路ふれあい月間イベント 道守が中心に

8月

8月は「道路ふれあい月間」で、4日は「橋の日」、10日が「道の日」です。月間の趣旨は道守活動そのものと重なります。昨年は道守九州会議発足の興奮や勢いが重なって道路月間を中心に九州各地の道の駅などで道守活動パネル展を開きました。

この実績などを生かし、今年には九州道守会議の重点活動の一つにすることが確認されました。具体的には新年度早々から各県ごとに行政と連携し官民協働型で企画立案や準備などを進める予定です。

### 各種の協働や連携の活用を 組織づくりやHP強化も

10月

道守会議発足1年目の特徴の一つは、官民協働の機運や実践が一気に増えたことです。国・県などで構成する九州幹線道路協議会には「道守分科会」が設置されました。新年度は県単位でも行政と道守組織が連携を深めることが確認されました。

このほか▽道づくりの現場での行政と道守の交流・連携▽道守ホームページの強化やメールの活用▽「道の駅」との連携▽県単位の活動強化と運営・財政基盤の確立・強化などの方向が検討されました。

### 大分県幹線道路協の道守部会発足式

in大分」の共同準備と成功を誓い合う場となった

大分県では市町村まで含めて行政と道守大分会議との連携窓口が開かれることになりました。各地に地道な道守活動がありますが、広範囲なだけに行事案内などが届きにくかった面があります。一気に改善されそうです。より多くの方々やグループの道守ネットワークへのご参加をお待ちしております。（道守大分会議事務局）





国立天文台VERA入来観測局



入来峠 懐かしい道・好きな道・自慢の道



## 国道328号・峠道 想えば似ている 私の人生と

峠道  
険しき道も今は微笑みむ道となり



田島直美

プロフィール

東京生まれ。薩摩川内市入来町在住。(株)田島組取締役、入来町女性団体連絡協議会会長、川内川をよくする会会員、八重山高原星物語実行委員会委員長、鹿児島県商工会女性部連合会理事。子供たちが自慢できる故郷づくりや広域的な女性のネットワークを生かし暮らしやすいまちづくりに取り組んでいる。

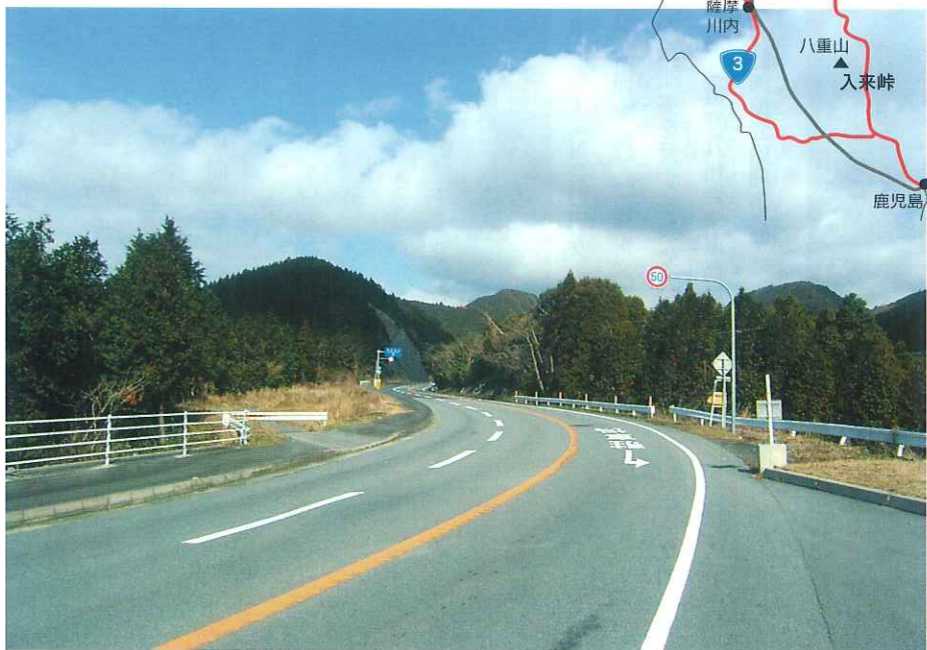
好きな道―真つ先に浮かぶのは国道328号。私の人生と重なるから。

今も昔も鹿児島市と出水市など北薩地方を結ぶ地域経済の幹線である。入来町を縦断し、入来麓と呼ばれる伝統的建造物群保存地区や「君が代発祥の地」と伝えられる日の丸地区を通り抜けると入来峠に差し掛かる。一帯は八重山高原である。

35年前、峠はジャリ道で曲がりくねって狭かった。私に乗せたバスはスイスイと走った。が、今にも落ちそう。不安が募り、私は泣き出してしまった。国道328号線との最初の出会いである。

4年後、入来町に世帯を持ち、自動車免許を取り、初めて車に向けたのも入来峠だった。峠の難所を越えれば別世界が広がる。東京から来て間もない私の心が唯一和んだ都会、鹿児島市。峠道は、郷愁への入口であり、道は心も運んだのです。

年を重ね、峠を越えなくても心は和む。この地を愛するようになった。自然と親しみ、道を守る活動



## 私たちの 道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく暮らして楽しい地域づくりのために九州各地の道守会員が取り組んでいる。スタンプもアイデアもさまざまな活動を紹介します。

地域からの報告

佐賀編

日々の活動も、企画も多彩

道守佐賀会議

道の見学

シニガールロード論議

ひな祭り清掃

「みち」を愛する人々がこんなたくさん。道守佐賀会議メンバーに共通の思いです。清掃活動をする人・花を植える人・「みち」の社会実験をする人・「みち」の座談会をする人と多彩です。共通点は実際に「みち」にかかわりながら「みち」を愛していること。2月の活動ぶりは…こまを紹介しましょう。

ルート203みちの見学会



佐賀市から唐津市までの道を約40人が「みて・さわって・感じて」きました。開催は11日。小城地区電線共同溝では、めったに入れないマンホールの中へ。電線共同溝の中は暖かくきれいでびっくり。敵木町の牧瀬杏会の花植え活動の現場を見学。「無理せず、できることから」の説明にボランティアの原点を感しました。浜玉の国道工事現場の見学もめったにない体験で、道路づくりの苦労やすこさを実感しました。

ひなまつりおもてなし清掃活動



佐賀城ひなまつりオープニングの19日、来場者のおもてなしのため会場一帯を清掃しました。NPO活気会など商店街の人々や道守メンバー、一般参加の約70人が「道守探検隊」のぼりを立てて旧古賀銀行旧古賀家 旧三省銀行 旧牛島家 旧福田家 恵比寿ギャラーとコースを回りながら清掃、楽しく気軽なツアーみたいでした。昼食は互いに労い合い、知り合い、会話が弾み、交流の場となりました。

シニガールロードフェスタIN佐賀

道守会員でもあるNPO活気会が開いたシンポジウムは長崎街道をテーマに「地域の魅力づくり」「長崎街道をどう観光資源に」「どうしたら佐賀が元気に」と意見を交わしました。菓子文化を伝える長崎街道の愛称「シニガールロード」は佐賀県を売り出すキーワードになるか？会場8割以上の手が上がりました。こんな風に「道守佐賀」は活動しています。現在、参加は約50団体700人。「道守」の大切さを県民の皆さんに知ってもらい輪が広がるよう道守活動を続けています。



虹の松原を守る会(佐賀)

気長に気楽に「拾い続ける」  
国有林で松露実験も



私たちの会は、昭和63年5月に21人で発足。現在、会員は60〜80代の47人です。国定公園内「虹の松原」の国道や県市道、駐車場周辺のゴミ拾いを毎月1回、3班に分かれ、市の燃えないゴミ収集日前日に実施しています。

作業は朝8時(冬は9時)から2時間。ゴミの量は毎回ビニール大袋が20個以上になります。車からのポイ捨て、わざわざ松原に捨てられる大型ゴミ。驚くばかりです。捨てる人がいるから私たちが拾っていく、と気楽に受け止めようと思いますが、きつと捨てる側も綺麗で美しい虹の松原が大好きなはず。一緒に素敵な場所にしたいと心より願います。

5年ほど前、NHKの番組に出演した縁で佐賀大学・田中先生のご指導の元、松露(茸の一種)発生テストを実施中です。国有林の一部を借受けての実験は全国でも初めてです。



(橋川 忠三)

よしいコスモス街道実行委員会 (福岡)

4人の決意が広がる、  
花の道も人の輪も



福岡県うきは市吉井を走る国道210号線に平成10年、バイパスが一部開通。江南校区のバイパス全域(4km)にコスモスを咲かせようと決意。12年4月、沿線住民に「自分達の道路は自分達で守ろう!綺麗にしよう!」と呼びかけ、約90人のボランティア組織が生まれた。空缶やゴミなどを取り除き、農具を持ち寄って畑を作り、種子を蒔き、夏は草取りと施肥、とみんなが頑張る汗を流した。作業でふれ合い、コミュニケーションが生まれ、色々な話題が広がる。秋には可憐な花が咲き、行き交うドライバーの微笑がみえる。



(名島 未登)

翌13年には7月から地元小学校の児童70人が課外授業として参加。バイパスも更に延長され隣接の千年校区にもボランティアの輪が広がりに約70人が参加。輪が広がれば花の種類も増え、道路の美化・愛護と地域活動に発展し、ボランティアサポート事業にも指定された。四季折々の花が咲くよしいコスモス街道へぜひお越しください。

ここにクリーンさぎ (長崎)

商工会や老人会が母体  
県に「道路の里親団体」認定



「自分たちの街は自分たちの手で綺麗に」をモットーに平成11年6月発足。35人でスタートし現在はメンバー約150人の、佐々町商工会中央部会や同町中央町内会老人会などで作るボランティア団体です。道路・公園・花壇の草取り、草刈活動で汗を流しています。13年には、住民の環境意識を高めるために県が清掃などを委託して活動を支援する「道路の里親団体」に認定されました。昨年6月、発足から丸五年目で五十回目を迎え町内の国道沿い約2kmの除草作業を行いました。



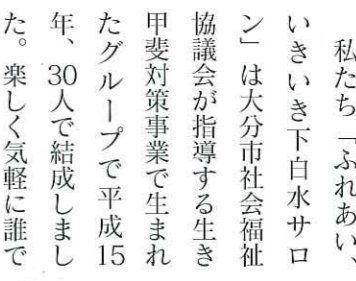
(西尾 弘毅)

今では町内外の方に「ゴミの少ない綺麗な町並みになった」と言われるようになり、会員ボランティア意識の定着と買い物客への感謝の気持ちが伝わったと感じています。

今後は一般住民・学生が楽しく率先して参加し、たくなる仕組みを作り「継続は力なり」を念頭に頑張っています。

下白水サロン (大分)

生き甲斐グループから発足  
別大国道の景観維持に一役



私たち「ふれあい、いきいき下白水サロン」は大分市社会福祉協議会が指導する生き甲斐対策事業で生まれたグループで平成15年、30人で結成しました。楽しく気軽に誰でも参加出来るつどいの場とし高齢者がみんなで竹炭製造や紙細工、囲碁将棋などを楽しんでいます。町の道路が三車線の新10号線となり、国土交通省より市民参加の道づくりを依頼されました。別大国道景観維持の一環として16年から毎月10日を清掃の日と決めて、新10号線と旧国道を清掃しています。国道には空缶をはじめ運搬途中に落下したのかいような物が落ちていきます。マナー欠如です。あきれるよりはまず清掃、と会員みんなで取り組み、別大国道の景観維持に一役買っています。



(岡田 憲一郎)

今後も自分達の街と共に道路をより美しくしたいと願い、末永く清掃を続けたいです。

錦219商業会の花いっぱい運動 (熊本)

きれいな道には花があり  
219号沿線の47店舗で構成



この会は、球磨郡錦町を走る国道219号沿線にある商店47店舗で構成しています。設立は平成10年。この会の目的は、国道219号沿線商店街の活性化と繁栄を図ることを目的としています。花いっぱい運動は、春植えとして二子ニ草約3千本を国道219号(旧国道と新国道の交差している空地)に植えています。二子ニ草の種はくまもと緑の財団よりいただき、錦町にある知的障害施設クレヨンの森の保護者に育苗を依頼しています。育苗した苗を錦商業会が1本60円で買い取ることにしています。買い取った金額はクレヨンの森の運営費に使われています。



また秋植えも同財団からパンジーの種をいただいています。今年は花壇の土の入替えを計画しており苦戦すると思います。会員の協力が頼みの綱です。花植えの楽しさ、植えた後の満足感、除草作業の辛さといういろいろありますが、だからこそ会員の親睦が深まるのです。(亀田 豊治)

大堂津平成会(宮崎)

ツマベニチョウ舞う日南海岸  
道守に参加して活動が広がる



明るに住みよい町づくりを目指し日南市大堂津地区の多業種のみなさんが集まって平成元年1月に生まれたのが大堂津平成会です。試行錯誤の後、日南海岸をツマベニチョウの楽園にしよう、と魚木の植栽や手入れなどを中心に取り組んできました。現在、会員は18人。

ツマベニチョウは宮崎辺りが北限の南のチョウです。魚木に卵を産み、幼虫はその葉を食べて大きくなります。10年を超える地道な活動のお陰で昨年は道守宮崎会議に参加し、さらに8月には国道事務所からボランティアサポートの指定をうけました。ほかの道守団体や行政との連携のおかげで活動範囲や内容が広がり、魚木の世話から道路脇や駐車帯などの植栽や清掃も始めています。「投げ捨てようとした空缶をそっと引っこめ我が家へ」そんな雰囲気のできた。駐車も空き地利用から駐車場整備へ、写真撮影の「とるば」にも役立つと考えています。大堂津平成会の地道で気長な道守活動は続きます。(日高 匡慶)



垂水市商工会女性部 (鹿児島)

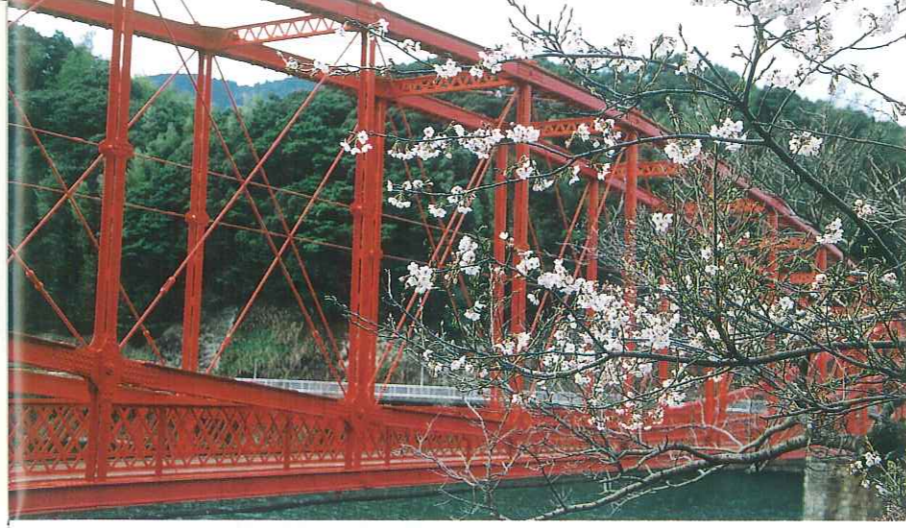
花1輪 垂水荒崎PA手洗い場  
38人が交替で自宅から持ち寄り



国道220号線沿い鹿児島島のシンボル桜島と錦江湾を目の前に、垂水荒崎パーキングエリアがあります。その内にあるトイレの手洗い場に女性部38人が自宅の庭先に咲いた季節の花1輪を交替に持ち寄り飾っています。週に1回、夏は週に2〜3回。花当番が心を込め、気持ち良く利用して頂ければと活動しています。時折ドライブ途中の皆さんに「雄大な桜島と一輪の花で心和む」と温かい感謝の言葉をかけていただきます。

女性部は昭和47年設立。平成13年より環境美化に貢献してきました。また毎年八月「道の日」の前後日曜日に、早朝二時間かけ垂水市中央商店街道路沿いの空缶拾い、草取り、ゴミ拾いを行います。悲しいのは空缶を樹木の中にわざと捨てる人がいること。自分達の町からゴミをなくし一輪の花から美しい町づくり。これからも部員一丸の環境美化を末永く続けていきたい。(美坂 康子)

# 河内貯水池は 土木遺産の名勝地 いま桜が盛り



南河内橋 魚形橋ともいわれ、鋼鉄部材はピンで止められているのが特徴。

北九州の桜の名所、八幡東区の河内貯水池は近代土木遺産の名勝地でもある。ヨーロッパの古城を思わせる石積みのダム堰堤自体が美しく、歩を進めれば美しい橋群「河内5橋」に出会える。

河内貯水池の着工は大正8年（1919）、第一次世界大戦後の鉄鋼需要増で官営八幡製鐵所が八幡東部を貫く板櫃川の渓谷を堰止めて作った。昭和2年（1927）竣工。貯水量700万tは当時東洋一であった。

車が往来できる貯水池西岸を堰堤から500mほど行くと「北河内橋」を渡る。長さ18.8m、鉄筋コンクリート製でカンチレバー・アーチ形式。その先の「中河内橋」は、三連のアーチ型自然石積橋だ。ここで採石されたもので15cmから30cmの大小の石を細かく積んだデザインが印象的だ。

河内5橋の中でとくに目を引くのが、真紅に化粧された南河内橋。通称めがね橋と呼ばれ全長60m、河内5橋のなかで唯一対岸と結ぶ。レンティキュラー（レンズ状）のトラスと呼ばれる鉄橋で、日本ではここしか現存しない。ゴシック風の橋門構を持ち、土木学会でAランクに指定された土木遺産である。

湖岸西側にさらに進むと堰堤から約1.6kmの奥田のせせらぎ広場にかかるのが「水無橋」。以前は8.5mの第一橋と8m

の第二橋の2つが連なり、ともにI形鋼を使つて周りを木材で化粧した珍しい橋だったが、今は第一橋だけが20m下流に移され普通のコンクリート橋となり名前だけを残している。

貯水池の最奥部、田代川に架かるのが「猿渡橋」。「中河内橋」の自然石積に対し「猿渡橋」は切石積みの幾何学模様だ。河内貯水池施設は橋といふ建物といふ自然石が多いせいか切石積みは異国情緒を醸し出す。

河内5橋は工法もデザインもそれぞれ個性的で美しい。設計したのは、当時の八幡製所土木部長・沼田尚徳。漢詩や書にも秀で、貯水池建設に当たり機能だけでなく品格と美をも持たせようとした。堰堤や河内5橋、さらに並字池と呼ばれる暴気処理池や附属建屋群も沼田の意匠をいまに伝えている。

ダム完成直前、沼田は妻・泰子を亡くした。40歳だった。沼田は内助の功を感謝し、湖畔高台の白山神社境内に石の追悼碑を私費で建て、自作の五言絶句の詩を刻んだ。

貞魄今安在 佳人隔九泉  
舊歡歸一夢 腸斷落花前  
（亡き妻は今：桜が散る、断腸の思いだ）  
沼田の詩心と河内5橋のデザインの美しさが重なる。桜の季節はさらに美しい。北九州市民から愛され続けている。池辺 和恵



河内貯水池全景※  
アクセス＝JR八幡駅から(西鉄バス)田代行き堰堤前バス下車。



猿渡橋※  
現在は拡幅のため下流にコンクリート橋がかかる。

北河内橋※  
建設時の河内5橋のなかで唯一のコンクリート橋。



中河内橋  
拡幅され湖面側は建設時の石橋だが、山側はコンクリート橋。

※印写真は(財)北九州市協会の発行「北九州の土木」より転載

## 歴史を学ぶ 街道を守る



### 豊前街道の今

熊本・山鹿



豊前街道に沿いに栄えた山鹿の商店街

温泉郷を貫いた産業道路  
町並みを守る古今の旦那衆たち

山鹿は豊前街道きつての湯の町、大名たちも好んで訪れた宿場町だった。と同時に熊本城を築いた加藤清正の街道整備で山鹿は米の集散地となった。惣門から続く約1.3kmの街道沿いにはいまも面影を残す老舗が多い。

「山鹿は昔から住民同士の結束が固い。わが家より先に地域を考える。知恵を絞り、資金を出し合い、町を発展させよう。そんな旦那衆が多かったのです」。話してくれたのは天保年間（1830年頃）に創業した木屋本店の8代目主人・井口圭祐さん。



木屋本店8代目店主・井口さん。『米米惣門ツアー』の代表も兼任。

旦那衆の逸話は多い。たとえば西南の役。旦那衆たちは下町の光専寺を薩軍側の野戦病院



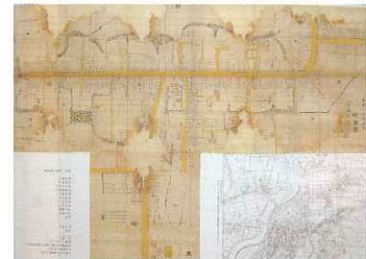
山鹿の誇り・八千代座(国指定の重要文化財)

熊本城を起点に北へ。現在の植木町、鹿央町、山鹿市、三加和町を通り、南関を経て小倉へと向かう小倉路を熊本では豊前街道と呼んだ。奈良時代の記録が残るほど重要な歴史の道だ。産業や文化の基幹道路の時代もあった。戦場にもなった。街道の歴史を大事にし、いまに生かす山鹿市や三加和町を訪ねた。

院として開放し、手厚く応じた。官軍側の処罰も覚悟で。勇気ある判断が山鹿の町を戦火から救ったという。

明治43年に誕生した八千代座も旦那衆たちが資金を調達し合って建てた江戸期の様式を残す芝居小屋だ。粋か、郷愁か。豊前街道の要衝、その地位は山鹿を外れて整備された国道、高速道路により奪われた。

しかし、いったんは廃屋となった八千代座を復活させたのも町の力。大修復から5年、「協力の大切さを教えられます。八千代座名物の坂東玉三郎公演は町の一大イベント。一緒に盛り上げる楽しさがある」と井口さん。



江戸中期に描かれた山鹿・湯町の地図(複製)

住民がガイドする酒蔵・味噌蔵めぐり「米米惣門ツアー」も好評で今年5年目。豊前街道は山鹿灯籠まつりの舞台にもなる。ハイライト千人踊りへの行き来の踊りは間近で身近。通りに休憩所や足湯も登場。豊前街道はいま山鹿の町づくりの主舞台だ。



金灯籠 (中島清さん作)

「将来の道づくり・町づくりのために歴史をたどることが大事」という豊前街道顕彰会会長・國武慶旭さんは三加和町に住む。早くから街道の歴史を注目の遺産価値に注目し、3年前に会をつくった。現在、会員は50人。街道沿いの宿場町跡で現地研修を重ね、街道の保存や整備事業にも積極的に携わる。

街道の見所を尋ねると「やっぱり腹切坂やろか」。ドキッとすると、由来はハラキリ(原を切る)の地形のようで、参勤交代道中屈指の難所とされた坂だ。明治・大正・昭和と忘れ去られていたが、顕彰活動が実り4年がかりの整備で一昨年に復活した。のどかな畑の傍に木立に囲まれた土の坂道が続く。緑清々しい歴史のシーニック・ロードだ。坂の傾斜はきつい。現代人にはいい運動になる。数百人を越す大行列が難儀し、西南の役で激しい攻防戦があった。畑を耕すと当時の鉄砲弾が出てきたりする。

坂道を歩きながら「道を知るには実際に歩くのが一番。町と町、地域と地域が繋がっていることを実感します」と國武さん。豊前街道で結ばれた地域とも交流を深めたいという。歴史に学び道を守る。現代の道守たち、その姿や活動ぶりは多士濟々である。



永ノ原台地から寺ノ本集落へと続く腹切坂。名前の由来には広い台地(原)の端(切り)にあたることからついたという説も。





## 道路の走りやすさマップ

「宮崎県北部版」に続き、  
「久留米・佐賀地域版」のお試し版を作成

### 道路の走りやすさマップの概要

道路の走りやすさマップは、道路利用者の視点に立った分かりやすい道路構造の情報提供や、道路管理者側が新たな視点での道路網の評価に活用していきます。

### 市街地部での評価や意見を把握

前回試作品として作成された宮崎県北部版では、山間部の道路が多かったため、人家の多い市街地での評価や意見が十分に把握できませんでした。

そこで、宮崎県北部版でのアンケートの回答を参考に、再度、評価内容や、評価方法などの改良を行い、市街地部の評価や意見を把握するため「久留米・佐賀地域版」をモデルとしてお試し版を作成しました。

### 走りやすさの評価

市街地部などの道路と郊外部・山地部での道路は、走りやすさに影響を与えるものが異なるので、分けて評価しています。市街地部の道路とは、道路の両側に人家（建物）が連続している区間としています。

#### 【市街地部などの道路の評価】

歩行者や自転車が多い市街地部などの道路は、歩道と車道の分離状況（歩道の有無や幅）等によって評価しています。

#### 【郊外部・山地部の道路の評価】

カーブが多い郊外部・山地部の道路は、カーブの大きさや多さによって評価しています。

### 久留米・佐賀地域版での主な改良点

自動車専用道路などの道路 (走りやすさのイメージ)	走りやすさ ランク	【走りやすさの分類】
自動車専用道路などで、スムーズな走行が可能	M	「市街地部などの道路」の評価ランクを4段階とし、「郊外部・山地部の道路」の色分けに統一しました。
市街地部などの道路 (走りやすさのイメージ)	A	郊外部・山地部の道路 (走りやすさのイメージ)
2車線以上の道路で、歩行者・自転車道が完全に分離され、路肩も広くカーブも少ない	A	2車線以上の道路で、路肩も広くカーブも少なくスムーズな走行が可能
2車線以上の道路で、歩行者・自転車道がある程度分離されている	B	2車線以上の道路で、カーブは多少あるものの、比較的スムーズな走行が可能
2車線の道路で、歩行者・自転車道が分離されていない	C	急カーブが多い2車線の道路、あるいは、急カーブが少ない1車線の道路
1車線の道路で、歩行者・自転車道が分離されていない	D	1車線の道路で急カーブが連続、あるいは、すれちがいがにくい



#### 【イメージマップ】

主要渋滞ポイントに渋滞方向と渋滞の長さの表示を追加しました。

## 民間の道守を支えよう 行政の組織に道守分科会・部会が次々に

国土交通省九州地方整備局と九州各県・政令市で構成する九州幹線道路協議会に昨年末、「道守分科会」が出来たのをきっかけに九州各県の幹線道路協議会にも道守分科会・部会が誕生しています。

道路行政施策の協議機関である幹線協議会に道守関連機能が設けられたのは

- ① 道の清掃や植栽、道を生かす街づくりなど道守活動の拡大
- ② 道守活動を盛んにする施策へのニーズの把握

- ③ 道守会議活動の普及・活性化の方策などを行政が一体となって行う（行政間の協議・調整）——などの目的です
- これまでに誕生したところは次の通りです(カッコ内は設立日)
- ▽九州幹線道路協議会道守分科会（16年12月21日）
  - ▽宮崎県幹線道路協議会道守分科会（17年2月14日）
  - ▽大分県幹線道路協議会道守部会（17年2月25日）
  - ▽鹿児島県幹線道路協議会道守分科会（17年3月17日）



## 愛称は「とるぱ」です フォトスポット&パーキング

<http://www.torupa.com/>

やまなみハイウェイや雲仙、霧島、日南海岸・天草西岸…。道路沿いの駐車場に車を止めれば十分に楽しめる九州の美しい風景。写真に残したくなる。そんな情報をプロ・アマを問わずカメラマンや体験者が提供し合おう、と始まったのが「フォトスポット&パーキング」です。

道守ホームページで情報提供を始めたのが昨年12月。反応は上々。もつと親しみやすく愛称ができました。「写真を撮るパーキング」だから「とるぱ」。3月から専用サーバーを設けてホームページをリニューアルしました。



## コンテスト応募は620点（九州内405カ所）

発表  
3月末

「フォトスポット&パーキング」スタートを記念し募集したフォトコンテストには応募期間中（昨年12月21日～2月28日）合計620点（405カ所）の応募がありました。

3月11日に第1次審査会が開かれ、約30点が通過。引き続き最終審査が行われます。発表は3月末。「とるぱ」ホームページや道守通信6号（6月末発行予定）で発表されます。

審査会のメンバーはプロカメラマンや旅行関係者、道守など17人。東島治男審査委＝（社）日本広告写真家協会九州支部＝1次審査の感想を「初回のコンテストでもあり応募数を心配しましたが、それを払拭する多数の応募があり、関心の高さと内容の濃さを実感しました。」と話しています。



## 「とるぱ」応募が簡単に 携帯電話でも表示

「とるぱ」が独立サーバーを持ったのを機にページがリニューアルされました。最大の変化はオンラインでの「とるぱ」情報提供（応募）が簡単・スピーディになったことです。

従来方式は写真や地図情報をメールに添付して送る必要がありましたが、新システムでは応募フォームに従って地図や写真を選択すればOK。お勧めスポットの名称や住所、コメントなど一括して送信できるようになりました。

一方、これらの提供情報を見る場合、地図やテーマごとに探すなどの機能は従来どおりですが、地図の表示は早くなりました。また3月下旬からは携帯電話でも「とるぱ」を見ることができるようになり、利便性は一層向上します



「ゴミを持ち帰る道守犬が話題に」道端の空き缶やペットボトルをくわえて帰宅する犬が、福岡県古賀市で話題を呼んでいる。犬の名前は「ピッピ」。散歩中に木の枝などをくわえて、持ち帰る癖があり、空き缶やペットボトルの時だけほめていたら、収集するようになったという。

**天神の屋台、元の道路へ** 福岡市天神の地下街延伸と地下鉄七隈線の工事のため、近く公園の歩道に仮移転していた屋台が、元の場所へ戻り始めた。ある店主は「ようやく戻れた。心機一転頑張ります」と笑顔。「移転先の公園にも通ったけど、この場所が一番落ち着く。西鉄の駅も近いしね」と常連客。

一方、一部には「美観を損なう」と反対署名運動もある。

**道の駅「たちばな」オープン** 福岡県八女郡立花町下辺春の国道3号沿いに、道の駅「たちばな」が今春オープンした。農産物直売所には、新鮮で格安のタケノコやミカン、キウイなど立花町の特産品が並ぶ。観光情報や道路状況などを24時間提供する情報室もあり、八女地域の魅力を発信する拠点施設として期待されている。

**旧長崎街道沿いにアジアンカフェ** 武雄市のまちおこしグループが、旧長崎街道の温泉どおりに観光情報の発信拠点としてアジアンカフェを春の人形まつりに合

わせてオープンした。木造モルタル2階建ての元医院の一階部分を改装。「温泉のように温かい武雄の人たちの人柄にひかれた」というスタッフが温かな雰囲気を出迎えてくれる。

**清掃でマラソン大会を盛り上げ** 第43回延岡西日本マラソン（2月20日、延岡市）を前に、ボランティア団体「延岡アスリートタウンサポーターズ（NATS）」が、コース沿道の清掃を行った。会員25人が延岡市と門川町、日向市の三カ所に分かれて実施。ごみ拾いと共にチラシを配布し、当日の沿道での応援を呼びかけた。

**大分で「ごみゼロ運動」を報告** 大分の県民運動「ごみゼロおおい運動」の活動報告会が2月末に行われた。推進団体が資源の再利用や清掃など一年間の取り組みを報告。環境問題の第一人者として知られる富士常葉大学の松田美夜子助教は「皆さん一人ひとりが地球の宝物のような人。活動は決して無駄ではないので、今後も続けて」と激励した。

**「べっだうオーク」に市民ら1000人** 6車線化が進む国道10号（大分市一別府市）で2月6日、高崎山一田ノ浦地区（約1.3km）供用開始の記念ウォークが行われ、市民ら約1000人が参加した。参加者は、カラー舗装された国道沿いの歩道（幅6.5m）を別府湾を眺めながら思い思い



## 道の声 人の声

「道の声・人の声」は読者のみなさんの投稿欄です。ご自由に意見や随想、「道守通信」の感想などを郵便または「道守」ホームページの投稿メールでお寄せください。字数は200〜300字程度、写真も受け付けます。採用分には記念品を差し上げます。

### ムネリンの 道掃除異聞

道守のみなさん、とっておきの話がありますよ。福岡ソフトバンクホークスの西戸崎合宿所（福岡市東区）の寮生がキャンプリン直前、合宿所周辺を清掃した。「ソフトバンクは「清く、正しく、強く」だろ。まずは「清く」から」と江崎毅寮長が提案、ムネリン・川崎宗則選手が呼びかけたところ、新人6人を含む約20人の寮生全員が快諾。午前10時から約30分、ゴミを拾った。集まったゴミは約30袋。先頭に立った川崎選手は「各自が意識を持ち、毎日でも清掃」と力説した。ちなみに、これまで足の踏み場もなかった彼の部屋は今やすっかり片付いているとか。（西日本スポーツ紙・安枝新悟デスク談）

### 世相パノラマ・バスの窓

福岡市営地下鉄七隈線が開業し随分便利になったろう。時間短縮などを考えれば、これほど利便性に富んだ乗り物はないかもしれない。その半面、暗いトンネルを駆け抜けるのに味気なさを感じる人もいると思う。

こんな書き出しでバスの窓からの作品を集めた写真随想に反響があつて驚いている。私はバスが好きだ。福岡市内を移動する短い時間の中で、歩くこと、車に乗ることは異なった視界が開け、その変化に面白さもある。時に



### 雨風に負けず 大きく花開け

冬空の下、田んぼのあぜ道を四歳の息子と散歩していると、片隅に小さなタンポポがもう咲いていた。花好きの息子がすぐに見つけ、うれしそうに「ママ、タンポポだ」と得意そうに言う。今にも雪が舞いそうな冷たい風が吹いている中、そこだけポツと温かい火がともったよう。植物はちゃんと季節を知っていて忘れることは

は渋滞に巻き込まれたりするが、イライラすることもなく、乗車している。バスの座席からふと垣間見た都市の空間、人の流れ、季節の移ろいに感動し、その一瞬、一瞬を写し止める。写真を撮ることで、車窓を流れるいつもの町の、いつもと変わらぬ景色が、新鮮な町のたたずまいに見えてきて不思議な世界が広がる。（福岡市・井形莊子）

のペースで歩いた。清掃活動も行われ、子どもたちが競うように空き缶やたばこの吸殻を拾った。

**熊本市がボランティア団体と協定** 市民に公園や道路などの公共空間の美化に参画してもらおうと、熊本市が「ふれあい美化ボランティア制度」を創設。2月初め清掃活動などを行う8団体と協定を結んだ。市は清掃用具の貸出やボランティア保険の加入などで活動を支援する。「美化だけでなく地域交流が深まり、活動が

**亀美大島をゴミ拾い横断**  
藤田晋さん（18歳）、中村剛士さん（18歳）鹿児島県立大島高校

「世界自然遺産候補地となった亀美の自然を考えるきっかけにしたい」。

自然を考えるきっかけにしたい。鹿児島県立大島高校の藤田晋さん（18）と中村剛士さん（18）が、亀美大島から加計呂麻島までの約100kmを5日間かけて、道路や海岸のゴミを拾いながら歩いた。きっかけは昨年参加した登山家・野口健さんの環境学校。屋久島のゴミ問題の現状を見てショックを受けた。「若者の志にならないようにしたかった」と藤田さん。2月7日に島の北端、笠利町のあやまる岬を出発。先々で心強い協力の申し出が相次いだ。



広がつてほしい」と幸山政史市長。整備作業で旧飯肥街道をPR。北郷町史談会（本山隆義会長、会員40名）が旧飯肥街道で雑木の除去などの整備作業を行った。旧飯肥街道は飯肥藩が参勤交代などに使った街道で、その存在を広く知ってもらうことが作業のねらい。「飯肥街道は地元でも意外と知られていない。ぜひ存在を知ってもらい、実際に歩いてほしい」と呼び掛けた。

### 「道守九州会議」からのお知らせ

**愛称「とるば」**  
フォトスポット&パーキング

道守九州会議では、国土交通省九州地方整備局と連携し「とるば（フオトスポット&パーキング）」情報を募集しています。詳しくは本誌14ページ、またはリニューアルした「とるば」ホームページをご参照ください。（<http://www.toupa.com/>）

### 道守ホームページの活用を

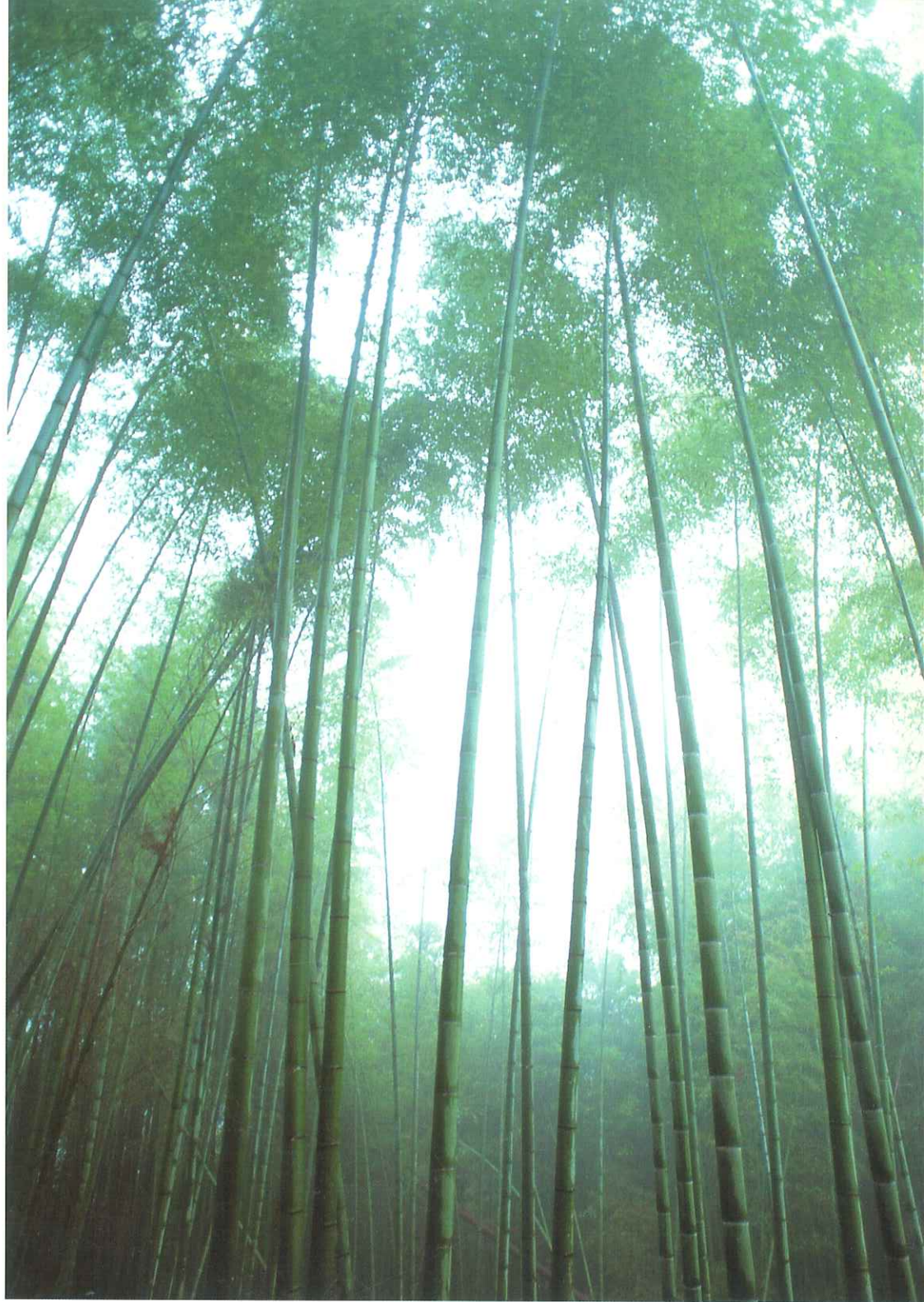
道守活動や関連イベントなどの情報をメールやCD、FDなどデジタルデータでお寄せいただければ道守ホームページや機関誌「道守通信」で簡単に紹介できます。応募・投稿フォーム（書式）は道守HPにあります。ご活用ください。（<http://www.michimori.com/>）

### 入会申し込み 問い合わせ

**（社）九州地方計画協会内  
「道守九州会議」事務局**  
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533  
(ホームページも参照ください。申し込みも可能です)  
■道守HP <http://www.michimori.com>  
■e-mail [michimori@michimori.com](mailto:michimori@michimori.com)

### 「道守通信」 編集後記

道守九州会議は発足から1年が経ち、活動の輪も広がってきました。道守ふくおか会議の発足で九州7県の地域体制が確立。行政側にも道守活動と連携する体制が九州レベルと宮崎・大分・鹿児島県で動き出し、道守活動発展への大きな枠組みが整いつつあります。国、県、市町村レベルで民間と行政が幅広く連携・協働し、道守活動がさらに広がることを願っています。みなさまの道守活動が楽しく元気に円滑に進みますよう環境づくりにがんばります。（編集委員・森将彦＝道守九州会議事務局長）



筍とし掘るをひかへし竹たちが  
ワツサワツサと怪ふさぎくる

執行 和子



広報誌「道守通信」春号  
平成17年3月25日発行

- 発行 「道守九州会議」
  - 事務局 (社)九州地方計画協会内  
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533
  - 「道守」ホームページ <http://www.michimori.com/>
  - e-mailアドレス [michimori@michimori.com](mailto:michimori@michimori.com)
- 定価 300円 (消費税を含む)